

令和3年度 松本保育園 「自己評価および学校〔園〕関係者評価」

1. 園の教育目標

子どもたちの主体的な学びと、他者とのかかわりで生まれる経験を通じて、生涯にわたり自ら学び続ける人間を育てる。

2. 本年度の重点目標

- あいさつ・・・あいさつやけじめある行動ができる子
- がんばり・・・あきらめずに自分のことが自分でできる子
- なかよし・・・友だちの気持ちが考えられる子

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	C
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	B
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	B
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	B
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	B
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	C
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	B
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	C
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	B
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	C
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	C
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	B
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	B

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- 未就園児の園見学や子育て支援活動「きらりんひろば」をできる範囲でやっていきたい。地域の子育て世帯の母親が気軽に来れる場所に。子育て世帯の母親が社会から孤立しない取り組み。保育園の窓口化。
- 保育園はソーシャルディスタンスを徹底することは難しい。子どもの成長には、子ども同士が肩を寄せ合い話したり関わったりすることが大切だ。コロナ禍であるが、心は近い生活を願いたい。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- 保育園の子どもの実態をみること（ラーニングストーリーの活用、子どもの表情が見て取れる園内研修）の中から、子どもの実態に合わせた計画的な遊びの環境の大切さを見直し、生活の流れや生活環境など確認してきた。園の自然豊かな環境を上手に取り入れながら、子どもの自発的な継続性のある遊びから、子どもの成長を感じていくようにできた。子どもの成長の過程を保護者に分かりやすい形で発信していくことや、地域社会にも発信しながら、地域とも連携し子どもの育ちを一緒に見て取れる方法を考えていかなければならない。次年度も引き続き、子どもの実態からの子どもの興味関心に即した保育の在り方を考えたい。

